

目次

- 1 はじめのうた
- 2 季節のカード (味覚編)
- 3 あそびうた 海の音
- 4 今月の詩 ある時 山村暮鳥
- 5 たし算 5の段
- 6 ことわざ 良薬口に苦し 月夜に釜を抜く
念には念を入れ 至れり尽くせり
- 7 かけ算 6の段
- 8 俳句 小林一茶 野沢凡兆 与謝蕪村
- 9 かぞえうた 1枚 1本 1台 (切符、ろうそく、救急車)
- 10 なぞなぞ
- 11 手あそびうた 五人のこびと
- 12 音の絵本 イルカ アシカ クマ ヤギ ライオン
- 13 イメージストーリー リード君 (第5話 水遊び大好き)
(イメージしてみましよう)
- 14 今月のうた 指をしゃぶらない
- 15 おはなし おおかみと七匹の子やぎ
- 16 童謡 かもめの水兵さん
- 17 漢詩 山亭の夏日
- 18 百人一首 藤原義孝 殷富門院大輔 紫式部 権中納言定頼
- 19 復習コーナー
- 20 暗示 (静かなところで目を閉じて聞きましょう)

うみ おと
《海の音》

うみ 海にいこうよ ラーン ラーン ランランラン

(リズムに合わせて、手やかスタネットをたたく)

おお なみ 大きい波だ ザーブ ザーブ ザブザブザブ

(リズムに合わせて、大きな音で手やかスタネットをたたく)

ちい なみ 小さい波だ チャップ チャップ チャプチャプチャプ

(リズムに合わせて、小さな音で手やかスタネットをたたく)

げん き あそ 元気に遊ぼう ハイ ハイ ハイハイハイ

(リズムに合わせて、手やかスタネットをたたく)



ある^{とき}時

やまむら ぼちよう
山村暮鳥

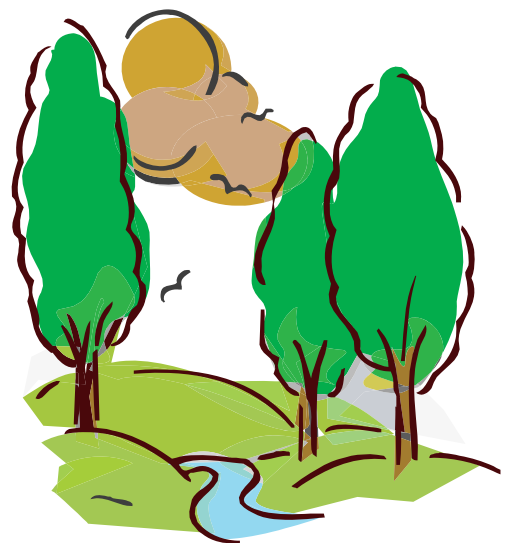
また^{ひぐらし} 蝸^{ころ}のなく頃となった

かな かな

かな かな

どこかに

いい^{くに}国があるんだ



ことわざ

りょうやくち にが
良薬口に苦し

よく効く薬は苦くて飲みにくいことから、身のために
なる忠告は聞き入れにくいこと。



つき よ かま め
月夜に釜を抜く

明るい月夜に釜を盗まれるという意味から、ひどく油
断することのたとえ。



ねん ねん い
念には念を入れ

注意したうえでさらに注意せよ。



いた っ
至れり尽くせり

心づかひやもてなしが十分に行き届いていて、申し分
のないこと。



俳句

だいじに ねて涼しさよ 淋しさよ

こばやし いっさ
小林一茶



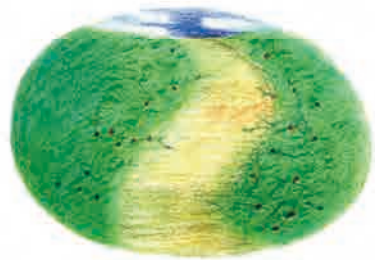
いちなかは 物のにおいや なつつき

のざわ ほんちよう
野沢凡兆



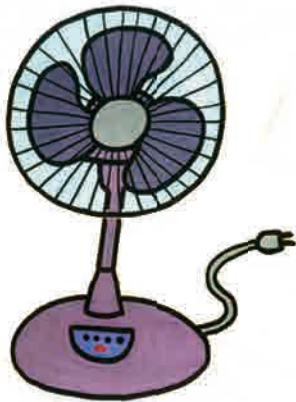
はな 花いばら こきようみち に 似たるかな

よきぶ せん
与謝蕪村



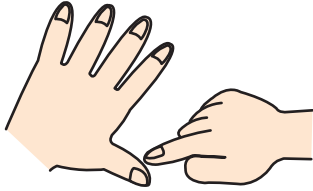
なぜなぜ

- 1 羽根^{はね}はあるけど空^{そら}は飛^とべない。でも、涼^{すず}しくするものはなあに？
- 2 長^{なが}いお鼻^{はな}でゴミをきれいに吸^すい取^とってくれるものなあに？
- 3 お腹^{なか}の中^{なか}がつかめたくて、いろいろなものを冷^ひやしてくれるものなあに？
- 4 遠^{とお}くにいる人^{ひと}の声^{こえ}も近^{ちか}くに聞^きこえて、お話^{はな}しできるものなあに？



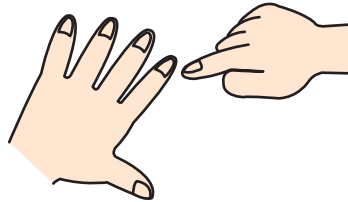
《^{ごにん}五人のこびと》

① こびとがひとり



ひとさしゆびで
おやゆびをさす

② こびとがふたり



ひとさしゆび、なかゆび…
と、じゅんにさしていく

③ さんにん



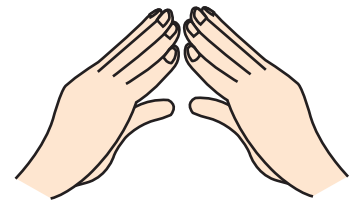
④ よにん



⑤ ごにんのこびと



⑥ こびとのおうち
かわいいおうち



て手をいえのかたちにする

⑦ おまどが いつつ
ちいさいおまど



ひとさしゆびで、ゆびの
あいだをひとつずつ
さしていく

※さいごはこゆびのそとがわ

⑧ こびとがのぞく
まどからのぞく



ひだり^て手のゆびのあいだに
みぎ^て手をすこし入れる

⑨ らったら らったら
うたつてのぞく



みぎ^て手のゆびを
うごかす

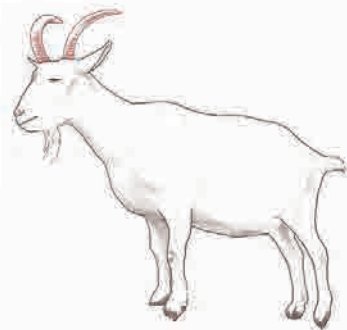
音の絵本

こんげつ
今月は、いろいろな動物たちです。

- 1) イルカ
- 2) アシカ
- 3) クマ
- 4) ヤギ
- 5) ライオン



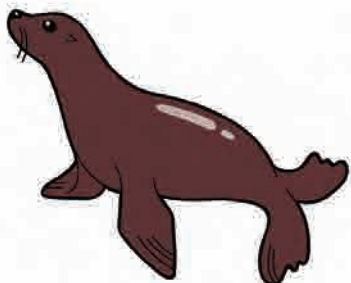
イルカ



ヤギ



クマ



アシカ



ライオン

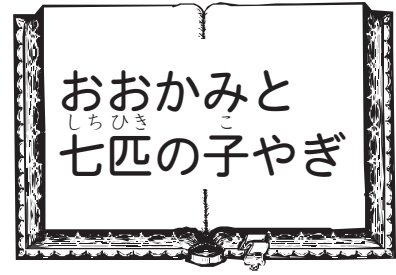
《指^{ゆび}をしゃぶらない》

シュパシュパ チュッチュツ
 シュパシュパ チュッチュツ
 変^{へん}だぞ変^{へん}だぞ おかしいぞ
 シュパシュパ チュッチュツ
 シュパシュパ チュッチュツ
 不思議^{ふしぎ}な音^{おと}が 聞こえるよ

誰^{だれ}かが誰^{だれ}かが お口^{くち}の中^{なか}で 泣^ないている
 僕^{ぼく}の頭^{あたま}を 食^たべないで
 僕^{ぼく}の頭^{あたま}は おいしくないよ
 僕^{ぼく}は僕^{ぼく}は 君^{きみ}の指^{ゆび}
 口^{くち}の中^{なか}より 外^{そと}が好^すき

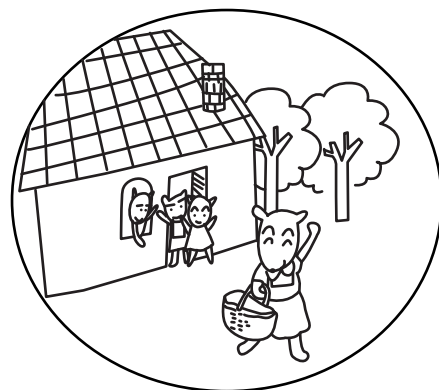
シュパシュパ チュッチュツ しなくても
 できるよできるよ 大^{だい}丈^{じょう}夫^ぶ
 おひざに手^てをおき 深^{しん}呼吸^{こきゅう}
 ゆっくりゆっくり 深^{しん}呼吸^{こきゅう}
 ほら できた
 シュパシュパ チュッチュツ さようなら





「おおかみとしちひきの子やぎ」は、子やぎとおおかみのお話です。お話を聞いた後で、質問にこたえてみましょう。

- 1 やぎのお母さんは、おおかみの何と何に気をつけるように言いましたか。
- 2 おおかみは、声を治すために何を食べましたか。
- 3 前足は、どうしましたか。
- 4 食べられなかった末の子やぎは、どこに隠れていましたか。
- 5 食べられてしまった子やぎは、何匹でしたか。
- 6 お母さんは、寝ているおおかみをどうしましたか。
- 7 お腹が石で重くなったおおかみは、どこに落ちましたか。



山亭の夏日

高駢

緑樹陰濃やかにして 夏日長し
りよくじゆ かげこま
 楼台影を倒にして 池塘に入る
ろうだい かげを さかしま
 水精の簾動きて 微風起こり
すいしょう すだれ うご
 満架の薔薇 一院香し
まんか しょうび いちいん かんば

君がため

惜しからざりし

命さへ

長くもがなと 思ひけるかな

(藤原義孝)

見

雄島の海人の

濡れにぞ濡れし 袖だにも

色は変はらず

(殷富門院大輔)

めぐり逢ひて

見しやそれとも

雲隠れにし 夜半の月かな

(紫式部)

朝

宇治の川霧

あらはれわたる 瀬々の網代木

(権中納言定頼)



藤原義孝